

本レポートの主要な知見

-  Web スクレイピングは、単なる不正行為やセキュリティ上の問題ではありません。ビジネス上の問題でもあります。スクレイパーボットは、組織の多くの面、たとえば、収益、競争力、ブランドのアイデンティティ、顧客体験、インフラコスト、デジタル体験などに悪影響をもたらします。
-  Akamai の調査によると、全トラフィック活動の 42.1% がボット由来で、そのボットトラフィックの 65.3% が悪性ボットから発生しています。また、悪性ボットトラフィック全体の 63.1% が高度な技術を使用しています。
-  スクレイパーの状況を変えたのは、ヘッドレスブラウザ技術です。この種のボットの活動を管理するためには、他の JavaScript ベースの緩和策よりも高度なアプローチが必要です。
-  スクレイピングが悪意を持って行われたか、有益な意図を持って行われたかにかかわらず、スクレイピングを受けた結果として組織が受ける技術的な影響には、Web サイトのパフォーマンス低下、サイトの指標の汚染、フィッシングサイトからの不正な認証情報を使用した攻撃、コンピューティングコストの増加などが挙げられます。
-  Web サイトで発生しているのが人間、基本的なボット、高度なボットのいずれのトラフィックなのかを判断するためには、さまざまなトラフィックパターンを観察し、把握することが重要です。パターンは、24 時間周期から、断続、連続まで、多岐にわたります。